

宮平川の抜本的な 水害対策を



答 一時的に雨水をためる施設整備が必要

問 宮平川の水害対策は抜本的な取り組みが必要だが、浸水被害の調査結果について伺う。

都市整備課長 地域内の浸水を

軽減するため、一時的に雨水をためる施設整備が必要となる。宮平川の浸水被害の原因は集落内の排水機能が追いつかず道路が冠水し、浸水する内水氾濫が主な要因である。

問 過去の答弁で、内水の問題が大きいという印象である。低地に雨水が集まり排水ができずに、内水の水位が上昇して床上浸水や車の水没が発生したという理解で良いか。

都市整備課長 その通りである。



膝上まで冠水した道路

浸水する地域は窪地の地形となっており、河川の橋梁部分から現地盤まで約70センチほど町道側は低い状態となる。



石垣 大志 議員

そのため、河川は氾濫していない状態でも集落内のほうで氾濫している状況である。

問 雨水をためる施設の整備が必要とのことだが、どのような施設か。

都市整備課長 原因の雨水量が、約5,000m³である。その量の貯水池にはスペースが必要になってくるが、道路に雨水貯留管を敷設し、一時的にためる方法を考えている。

問 雨水貯留管を敷設していく取組みについて今後のスケジュールを伺う。

都市整備課長 R7年度までに

計画の策定。R8年認可に關わる設計、R9年事業認可、R10年詳細設計、R11年から5年程度の対策工事を予定している。

問 R11年度までかなりの期間がある、河川の水位を下げる取組は、やはり今後とも必要であると感じているが、実設計画の中で河川整備事業の事業費がR7年度から約300万円となる。R7・8年度において、この事業費で十分か。

都市整備課長 緊急浚渫推進事業債の活用期間がR6年度までとなり、今後も同事業期間を延伸できないか、模索する。

— こんな質問もしました

- 南風原北一C前(名護向け)の交差点に右折信号機の設置を
- 学校施設の防球対策について 問う

- 北丘小学校体育館工事について
- 南風原中学校制服について